

歴史系外部人材との対話・協働による 「歴史の教訓」を扱う授業のデザイン・評価

— 単元「今、江戸時代のリサイクルの知恵は使えるのか？」の開発と実践を通して —

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会科）

中村 賢治

本研究の成果は、生徒と歴史系外部人材の対話・協働による「歴史の教訓」を扱う授業デザインを明らかにしたことである。それは段階的なプロセスを経る。①生徒と歴史系外部人材の歴史観・歴史的思考が異なることを明示し、互いの役割の違いを認識させ適切な連携方法を対話させる。②歴史授業の目的として「歴史の教訓」から社会における共通善を形成することを設定し両者で共有する。③生徒と歴史系外部人材とが歴史の因果関係だけでなく現代の問題状況をも探索できるような歴史授業を実践する。④このような手立てに基づく歴史探究と現代探究の連続的な学びを繰り返す。加えて、この授業を成立させる歴史系外部人材による4つのエンパワーメントの可能性も導出することができた。

これまで歴史の専門家と歴史教育者は、学問観の違いから「歴史の教訓」を巡って対立していた。しかし、本研究ではその違いを市民としての役割の違いと捉え、異質な市民同士の対話・協働とした。それを18世紀の江戸を題材にした「歴史の教訓」を扱う授業を通して実践した結果、先の成果を得ることができた。